60分でわかる旧約聖書(23) 「イザヤ書」

1. はじめに

(1) 預言者たちの分類

①旧約聖書では、預言者の時代はサムエルとともに始まった(前1100年頃)。

*祭司たちが墮落した時代に、神は預言者を起こされた。

②預言書を書いた預言者たち(the writing prophets)は、王国が南北に分裂して以降に登場した(前930年頃)。

③バビロン捕囚から帰還して以降、旧約聖書の歴史の終わりまで彼らの働きは続いた(前400年頃)。

(2) 預言者たちの働き

①同世代の人たちに、神のことばを伝えた。

*彼らは「預言者」たちである。

*彼らは、自分が語っていることをよく理解していた。

*「【主】は言われる」、「【主】のことばがあった」などが使われる。

②将来起こることを預言した。

*彼らは「予言者」たちである。

*従順か不従順かによって、結果が異なってくるというメッセージ。

*必ずしも自分が語っている内容を理解していたわけではない。

*特に、メシア預言においてそれが言える。

*なぜメシアは、受難のしもべであると同時に、栄光の王なのか。

*これは、初臨と再臨の区別がついていないことからくる戸惑いである。

(3) 預言書の分類

①大預言書(the Major Prophets)

*預言の分量が多い。

*イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書

②小預言書(the Minor Prophets)

*預言の分量が少ない。

*ホセア書からマラキ書までの12書。

(4) 働きの時期による分類

①捕囚期前(12)

②捕囚期(2)

*エゼキエル書

*ダニエル書

③捕囚期後(3)

*ハガイ書

*ゼカリヤ書

*マラキ書

(5) 預言者たちが語ったメッセージの要約

- ①神の主権と聖なるご性質
- ②契約の民イスラエルの不従順の罪
- ③悔い改めへの招き
- ④迫り来る神の裁きと捕囚
- ⑤イスラエルの民を攻撃する周辺国への裁き
- ⑥捕囚からのレムナントの帰還
- ⑦メシアの来臨とイスラエルの民によるメシア拒否
- ⑧大患難時代とイスラエルの民の回復
- ⑨王としてのメシアの来臨
- ⑩メシア的王国の樹立

(6) 預言者たちが語らなかったこと

- ①教会の預言
- ②新天新地の預言

2. アウトライン

- (1) イザヤ書の著者
- (2) イザヤ書の統一性
- (3) イザヤ書の執筆目的
- (4) 新約聖書の中のイザヤ書

イザヤ書の内容について学ぶ。

I. 著者

1. イザ1:1

Isa 1:1 アモツの子イザヤの幻。これは彼が、ユダとエルサレムについて、ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に見たものである。

- (1) 著者は、アモツの子イザヤである。
 - ①南王国ユダの4代の王に仕えた。

- ②ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤ
- ③イザヤという名前は、「ヤハウエは救い」という意味である。

(2) イザヤの素性

- ①彼はエルサレムに住み、宮廷に出入りすることができた。
- ②結婚し、2人の息子が与えられていた。
 - *シェアル・ヤシュブ(7:3)
 - *マヘル・シャルル・ハシュ・バズ(8:3)
- ③召命の記事(6:1~13)から祭司だったと考える者もいるが、証拠はない。
- ④奉仕期間は、およそ60年に及ぶ。

II. 統一性

1. イザヤ書を2つに区分する考え方がある。

(1) これは、自由主義神学者たちの立場である。

- ①第1イザヤ(1~39章)
- ②第2イザヤ(40~66章)
 - *それが誰であるかは明示しない。
 - *旧約聖書39巻、新約聖書27巻と数字の上では一致している。
 - *このことに意味付けする必要はない。
- ③これは、18世紀になって提案された新しい説である。

(2) 区分する理由

- ①超自然的要素を認めない姿勢
 - *将来の出来事の預言は、それが起こってから書かれたと主張する。
 - *しかし、イスラエルの神が将来の出来事を預言できないなら、偶像の神々と同じレベルになるではないか。
- ②文学形式が異なっている。
 - *しかし、テーマが異なると、異なった用語や形式を採用するものである。

2. 私たちの立場

(1) 歴史的証拠

- ①ユダヤ人の伝承では、イザヤ書はひとつの書である。
- ②死海写本の中のイザヤ書は、ひとつの書である(前2世紀)
- ③クリスチャンの伝統でも、18世紀になるまでは、イザヤ書はひとつの書と考えられてきた。

(2) 新約聖書の記録

- ①新約聖書による旧約聖書の引用は、詩篇が最高であり、次がイザヤ書である。
- ②主要なイザヤ書からの引用には、イザヤというタイトルがつけられている。
- ③イエス・キリストは、イザヤがイザヤ書全体の著者であることを認めている。
*ルカ4:17~19(預言者イザヤの書が手渡された)

(3) 自由主義神学者たちは、超自然的な要素を信じることができないのである。

III. 執筆の目的

1. 契約の民に、彼らはヤハウエと特別な関係にあることを思い出させた。
 - (1) ヤハウエとは、契約の神の御名である。
 - ①イスラエルの民には、契約の民としての特権と責務がある。
2. イザヤは、アブラハム契約を理解していた。
 - (1) この点は、他の預言者たちも同じである。
 - ①アブラハム契約の理解は、預言者として必須の知識である。
 - (2) イスラエルの民の特権
 - ①カナンの地を所有するという約束
 - ②子孫が増えるという約束
 - ③他の民族に対して祝福となるという約束
3. イザヤは、シナイ契約も理解していた。
 - (1) 申命記の中に、モーセの律法の内容が要約されている。
 - ①律法に従えば、祝福が来る。
 - ②律法に違反すれば、裁きが来る。
*その中には、捕囚も含まれる。
 - ③裁きは、契約関係に基づく「神の叱責」である。
 - (2) イザヤは、その地から追放されても、やがて民が帰還することを知っていた。
 - ①これは、アブラハム契約の効果である。
 - ②モーセが、申命記の中ですでにそのことを預言していた。
4. イザヤは、2つの世代に語りかけていた。
 - (1) 同世代のイスラエル人たち
 - ①イザヤは、同世代のイスラエル人たちに悔い改めのメッセージを語った。

- ②シナイ契約に基づけば、背信の民は神の裁きに会う。
- ③イザヤは、南王国ユダが捕囚に引かれて行くことを知っていた。

(2) 将来のイスラエル人たち

- ①捕囚の地にいるであろう人たちに、希望のメッセージを届けた。
- ②神は彼らを約束の地に回復し、平和と繁栄の御国を建設される。
- ③イザ 40~66章では、「慰め」がキーワードになっている。
 - *罪の贖いというテーマ以上のものが含まれている。
 - *被造世界の回復のメッセージが語られている。

IV. 新約聖書の中のイザヤ書(イザヤ書の後半部分)

1. バプテスマのヨハネが登場した。イザ 40:3

Mat 3:3 この人は預言者イザヤによって、／「荒野で叫ぶ者の声がある。／『主の道を用意し、／主の通られる道をまっすぐにせよ』」／と言われたその人である。

2. 悪霊を追い出し、病気の人をいやされた。イザ 53:4

Mat 8:17 これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。「彼が私たちのわずらいを身に引き受け、私たちの病を背負った。」

3. 安息日に片手のなえた人をいやされた。イザ 42:1~4

Mat 12:17 これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。

Mat 12:18 「これぞ、わたしの選んだわたしのしもべ、／わたしの心の喜ぶわたしの愛する者。／わたしは彼の上にわたしの霊を置き、／彼は異邦人に公義を宣べる。

Mat 12:19 争うこともなく、叫ぶこともせず、／大路でその声を聞く者もない。

Mat 12:20 彼はいたんだ葦を折ることもなく、／くすぶる燈心を消すこともない、／公義を勝利に導くまでは。

Mat 12:21 異邦人は彼の名に望みをかける。」

4. イエスの公生涯のまとめ。イザ 53:1

Joh 12:38 それは、「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか。また主の御腕はだれに現されましたか」と言った預言者イザヤのことばが成就するためであった。

Joh 12:39 彼らが信じることができなかつたのは、イザヤがまた次のように言ったからである。

Joh 12:40 「主は彼らの目を盲目にされた。また、彼らの心をかたくなにされた。それは、彼らが目で見ず、心で理解せず、回心せず、そしてわたしが彼らをいやすことのないためである。」

Joh 12:41 イザヤがこう言ったのは、イザヤがイエスの栄光を見たからで、イエスをさして言ったのである。

5. イスラエル人の不信仰と異邦人の救い。イザ 10 : 22、8 : 14、28 : 16

Rom 9:27 また、イスラエルについては、イザヤがこう叫んでいます。／「たといイスラエルの子どもたちの数は、／海べの砂のようであっても、／救われるのは、残された者である。」

Rom 9:28 主は、みことばを完全に、しかも敏速に、／地上に成し遂げられる。」

Rom 9:29 また、イザヤがこう預言したとおりです。／「もし万軍の主が、私たちに／子孫を残されなかったら、／私たちはソドムのようになり、／ゴモラと同じものとされたであろう。」

Rom 9:30 では、どういうことになりますか。義を追い求めなかった異邦人は義を得ました。すなわち、信仰による義です。

Rom 9:31 しかし、イスラエルは、義の律法を追い求めながら、その律法に到達しませんでした。

Rom 9:32 なぜでしょうか。信仰によって追い求めることをしないで、行いによるかのよう

に追い求めたからです。彼らは、つまずきの石につまずいたのです。

6. イスラエル人の不信仰と異邦人の救い。イザ 53 : 1、65 : 1

Rom 10:16 しかし、すべての人が福音に従ったわけではありません。「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか」とイザヤは言っています。

Rom 10:17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

Rom 10:18 でも、こう尋ねましょう。「はたして彼らは聞こえなかったのでしょうか。」むろん、そうではありません。／「その声は全地に響き渡り、／そのことばは地の果てまで届いた。」

Rom 10:19 でも、私はこう言いましょう。「はたしてイスラエルは知らなかったのでしょうか。」まず、モーセがこう言っています。／「わたしは、民でない者のことで、／あなたがたのねたみを起こさせ、／無知な国民のことで、あなたがたを怒らせる。」

Rom 10:20 またイザヤは大胆にこう言っています。／「わたしは、わたしを求めない者に見いだされ、／わたしをたずねない者に自分を現した。」

Rom 10:21 またイスラエルについては、こう言っています。／「不従順で反抗する民に対して、／わたしは一日中、手を差し伸べた。」